５年２組教室　(５年２組)

**６　本時の展開 （４／５）**

**（１）ねらい**

　　・けがが起きたときの適切な手当ての仕方を理解し、自分でできる手当ての仕方を身に付ける。

**（２）指導の実際**

|  |  |
| --- | --- |
| ○学習活動　・予想される児童の反応 | ◎安全教育の視点に立った留意点■評価（評価方法） |
| ○前時の振り返りをする。　・けがが起きる場所は、たくさんの人がいたり、物が整理されていなかったりするところだ。・別のことを考えている時にけがは起こりやすい。　・決まりを守り環境に気を付けることで、けがは防ぐことができる。 |  |
| ○もし、自分の近くで友達がけがをしたら、自分にできることは何かを考え、発表する。　 | ◎決まりを守り、環境に気を付けていても起きてしまうけががあることを確認し、手当てを学ぶ必要があることに気付かせる。 |
| 自分でできるけがの手当ての仕方を学ぼう。○すりきずや鼻血のときの正しいけがの手当てを養護教諭から学び、ペアで実演する。　**①すりきず→傷口を水で洗う。消毒する。(実演)****②鼻血→少し下を向き、鼻の付け根を押さえる。****(実演)**○捻挫をしたときに適切なけがの手当てを養護教諭から学ぶ。　**③捻挫→冷水などで冷やす。患部を少し高くして安静****にする。(実演)**・代表児童による実演を見ながら、適切なけがの手当てを学ぶ。○本時の学習で学んだことを書く。・簡単なけがの手当ての仕方を知っておくと、けがをしたときにもっと悪くならなくて済むことがわかった。・もし自分や友達がけがをしてしまったときは、今日学んだ手当てをしてみようと思った。 | ◎けがが起きる具体的な場面を想定することで、自分の事として捉えられるようにする。◎なぜその手当てをするのかを考えさせることで、手当ての一つ一つに意味があることを理解させる。◎血が付いたものは感染症予防のために自分で始末することを伝える。◎応急手当てを学ぶに当たり、誤った知識や技術で手当てをしたために、かえって症状を悪化させてしまうことがあることを伝え、真剣に取り組むようにする。■けがが起きたときの適切な手当ての仕方を理解し、自分でできる手当ての仕方を身に付けている。(ワークシート) |